

サロベツ・エコモー・プロジェクト

参加者随時募集中

[step.1 応募]

応募用紙にご記入の上、郵送・FAXでお送りいただくか、ウェブサイトからも直接応募できます。

毎年12月末日まで随時受付けています。

※活動は事後の登録も可能です。

※応募用紙が必要な場合は、以下の受付窓口にご連絡ください。



[step.2 活動内容の紹介]

受付後、活動内容をウェブサイトに掲載します。



[step.3 活動実施]

応募年内に実施してください。※サポートが必要な際はご相談下さい。



[step.4 活動結果の報告、交流]

活動報告会で活動結果を報告し、プロジェクトのメンバーと交流することができます。



サロベツの湿原と農業が共生する地域づくりを進めるプロジェクトです。

サロベツ・エコモー・プロジェクト受付窓口
(サロベツ湿原センター内)

〒098-4100 北海道天塩郡豊富町上サロベツ8662番地

TEL: 0162-82-3232 FAX: 0162-82-1009

Mail: ecomono@sarobetsu.or.jp <http://sarobetsu-saisei.jp/ecomono/>

サロベツ・エコモー・プロジェクト2011活動報告集
発行: 環境省稚内自然保護官事務所



サロベツ・エコモー・プロジェクト 2011 活動報告集



酪農と結びつきの強いサロベツ
湿原と酪農のおりあいをどうやってみつけていくか
課題でもありおもしろさである。



上サロベツ自然再生協議会
再生普及部会

座長
辻井 達一

サロベツ・エコモー・プロジェクトは、サロベツ湿原とその周辺を含めて、人と自然のさまざま“かたち”と“うごき”を考えてみよう、とするものです。

公募で決まったその名“エコモー”は、正にエコロジーのエコと、この地のもっとも主要な人の営みである酪農の牛の鳴き声のモーから成っています。

再生普及部会は、再生技術部会と共に上サロベツ自然再生協議会を構成するものですから、協議会の行っている自然再生事業の普及啓発を行うのはもちろんですが、国内有数の特徴的な高層湿原を中心とするサロベツ湿原の保全と基幹産業としての農業との共生についての、さまざまなアイデアを考えることも、その役割としています。

どうぞお読み下さってご批評下さい。
そして、もし、これらの活動がご参考になればうれしい限りです。

サロベツ・エコモー・プロジェクト 2011活動報告書 もくじ

ごあいさつ

1・ごあいさつ

もくじ

2・もくじ

エコモーとは?

3-4・サロベツ・エコモー・プロジェクトって何?

プロジェクト活動報告

5・アイヌ文様の刺繡に挑戦!

オバパワー倶楽部

6・上サロベツ農業情報マップ

稚内開発建設部農業開発課 他

7・上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展

稚内開発建設部農業開発課 他

8・顔出しパネル作成

J A 北宗谷青年部

9・サロベツ自然語講座

N P O 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

10・外来種からサロベツを守ろう!

N P O 法人サロベツ・エコ・ネットワーク 他

11・稚咲内砂丘林再生プロジェクト

N P O 法人サロベツ・エコ・ネットワーク 他

12・サロベツ人気UP作戦

オバパワー倶楽部

13・我が町再発見!ヘリ&気球遊覧

サロベツ湿原保全推進協議会

14・押忍!我ら豊富町『カレー部』!

みさたろとゆかいた仲間たち 他

15・サロベツの縄文人の見た風景

ノブの会

16・サロベツの歌巡り

ノブの会

17・かつての泥炭地での酪農の取り組みを探る

サロベツの今を見直す100の声の会

18・サロベツサブレンジャー

北海道大学植物同好会

19・サロベツ花札をつくろう in2011

まっちゃん

20・サロベツ原野であそぼ!

とんこり堂・法昌寺日曜学校

21・見つけよう!湿原に咲く花・虫・鳥

幌延町立中央保育所

22・ポニーの幌馬車・馬ソリ

東條信雄・恵太

23・木道ナイトハイク

環境省稚内自然保護官事務所 他

24・秋の渡り鳥観察会

環境省稚内自然保護官事務所 他

25・平成23年度総会および活動報告会・ 野鳥観察会

サロベツ学会

26・市民参加型湿原保全活動(チームサロベツ)

サロベツ学会

活動実施場所マップ

27・サロベツ周辺マップ

サロベツを楽しむ、サロベツの魅力を伝える、 そんなあなたの活動、それが **サロベツ・エコモー・プロジェクト**

サロベツ原野

サロベツ湿原は、天塩川支流のサロベツ川流域にあり、豊富町と幌延町内に位置します。湿原には、低地においては日本最大の面積を誇る高層湿原が存在し、それを取り囲むようにして中間湿原、低層湿原が分布しています。また、湿原の周辺にはペンケ沼、パンケ沼などの湖沼が点在しており、渡り鳥の重要な中継地となっています。このようにサロベツ湿原は多様な自然環境と特徴的な生物層を有していることから、昭和49（1974）年に利尻礼文サロベツ国立公園に指定されました。また、平成17（2005）年には、ラムサール条約湿地に登録されています。

注1) 利尻礼文サロベツ国立公園：昭和49年、日本で27番目の国立公園に指定。

注2) 高層湿原：水分と養分のほとんどが雨や雪などによって供給される湿原。貧栄養な環境でも育つミズゴケを主体とし、未分解の植物が厚く積み重なっているのが特徴。

注3) ラムサール条約：正式名は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。湿地の保全などを目的に、イランのラムサールで最初に締約された。サロベツ原野は世界で1555番目の登録地。

上 サロベツ自然再生事業

かつては約15,000haにも及んだサロベツ湿原は、昭和40年代後半の大規模開発により減少し、今ではかつての半分以下の約7,000haとなっています。また、残存した湿原も乾燥化などの課題を抱えています。こうした問題に取り組み、湿原と人が共生する地域づくりを進めるため、サロベツでは地域住民、NPO、関係機関、専門家など多様な主体が参加、連携する自然再生事業が進められています。

サロベツ・エコモー・プロジェクト

サロベツの自然や文化を楽しむ活動の環を広げ、湿原と農業が共生する地域づくりを進めるためのプロジェクトです。自然再生の取り組みが行われているサロベツを感じてもらえるような、楽しい活動がたくさん行われています。

サロベツ・エコモー・プロジェクト 2011活動報告集を見る

“エコモー”7つの行動

サロベツ・エコモー・プロジェクトでは、サロベツの自然や文化を楽しむ活動の内容を、7つに分類しています。本誌では、それぞれ活動に対し当てはまるものをマークしています。



サロベツを見
つけよう



サロベツの話
をしよう



サロベツを
楽しもう



サロベツのこ
とをまとめよう



サロベツを
発信しよう



サロベツの利
用ルールを
つくろう



サロベツで
つなげよう



アイヌ文様の刺繡に挑戦！

オバパワー倶楽部

- 日 時：2月27日(日)13:00～17:00、3月6日(日)13:00～17:00
- 場 所：サロベツ湿原センター
- 参加者数：約10名(2日間合わせて)



(上) 以前から興味を持っていたという人たちが数多く参加。
 (右上) 和気あいあいの雰囲気の中、楽しみながらの活動を実施。
 (右下) 活動の中で作られた作品。今回はアイヌ調の文様に挑戦。



■活動内容・成果

冬にみんなで集まることのできる場所があったからできた活動でした。今年は2月27日(日)と3月6日(日)の2日間で合わせて10名近くが集まり、巾着やタペストリーなどを自由に作成しました。作成している合間に参加者同士でお話をしながら、楽しい時間を過ごすことができました。

参加された方からは、「前から興味があったが、やり方がわからなかつたので参考になった」「家に帰ってもチャレンジしてみたい」「集まっておしゃべりするのが楽しい」「来年もぜひ実施してほしい」と、大変好評でした。

同じテーマで、広く一般を対象に行う場合は、道具の用意や、専門の先生を招くなどの準備も必要になってくると思います。

■実施者からの声

冬だからこそ、みんなでサロベツに集まってお茶でも飲みながら、ゆっくりのんびり過ごしましょう。今回は、ちょっと文化的にアイヌ文様の刺繡にも挑戦しました！

連絡先：サロベツ湿原センター
TEL: 0162-82-3232



上サロベツ農業情報マップ

稚内開発建設部農業開発課、豊富町役場農政課

- 日 時：2011年4月～2012年3月
- 場 所：サロベツ湿原センター、豊富町役場、マップ掲載団体にて設置・配布



(左) 牧場だけでなく、農業牧畜関連施設を掲載。
 (右) 団体の詳しい情報も掲載。観光ガイドとしての役割も果たせるように。



■活動内容・成果

「上サロベツ農業情報マップ」は、地域おこしの資料として、地域の農業・農産物・景観に係わる情報発信として制作を始めました。毎年度マップの内容は更新しており、掲載する団体等にヒアリングなどを行なながら、より新しい地域の情報を発信しています。この上サロベツ地域の農業情報を紹介する「上サロベツ農業情報マップ」をサロベツ湿原センター・役場等の公共施設とマップ掲載団体に置き、町民や来町者等に情報提供を行いました。また、ホッキ祭りや町民文化祭でも配布し、今年は約1,000枚配布しました。今年度は、サロベツ湿原センターにて配布していたところ、来場者に非常に好評であったため、来年度も同様の対応をしたいと思っています。

■実施者からの声

「上サロベツ農業情報マップ」を、地域の農業情報を宣伝するなど活用して頂きたいと思います。

連絡先：稚内開発建設部農業開発課
TEL: 0162-33-1169

上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展

稚内開発建設部農業開発課、稚内農業事務所

- 日 時：4月28日（木）～10月31日（月）
- 場 所：サロベツ湿原センター、豊富町民センター（町民文化祭 10月29日、30日）



(上) サロベツ湿原センター内でパネル展を開催した。
 (右上) 展示されたパネルに見入る参加者たち。
 (右下) 会場内では、アンケートの記入も依頼。次回に活かしたい。



■活動内容・成果

農業と自然との共生を目指す上サロベツ地域の取り組みや農業の振興に関する地域情報を紹介するパネル展を4月28日～10月31日の間サロベツ湿原センターにて、10月29日～10月30日の間、豊富町民センター（町民文化祭）にて開催しました。パネルの内容として、自然再生事業に関することや豊富町の『「わが村は美しく－北海道」運動』といった地域の活動紹介、農業マップなどをパネル展示で紹介し、見学者にサロベツ湿原と共生する農業生産活動を伝えることができました。

■実施者からの声

「上サロベツの自然と農業を学ぶパネル」を見て、地域の活動や農業情報を知って頂きたいと思います。

- 連絡先：稚内開発建設部農業開発課
- TEL : 0162-33-1169

顔出しパネル

J A 北宗谷青年部

- 日 時：8月18日（木）より設置（製作期間：4月26日～5月6日）
- 場 所：サロベツ湿原センター
- 参加者数：総数54人



(上) 部員の手によって作成された顔出しパネル。
 (右上) 子どもや学生など、若い人たちの記念撮影に利用された。
 (右下) 会場内では、アンケートの記入も依頼。次回に活かしたい。



■活動内容・成果

来場客の記念と、基幹産業である酪農のPRと牛乳の消費拡大の啓蒙を目的として、今年は4月26日～5月6日の間に顔出しパネルの作成を青年部（総数87名）で行いました。

作成した顔出しパネルは、サロベツ湿原センターに8月18日から設置、展示を行っています。もう一基顔出しパネルを作成をしており、稚内のふれあい公園にも設置をしています。稚内では、牛乳の消費拡大をPRするため、牛乳の配布等を公園の来場者に行いましたが、豊富町では今回は設置のみであったため、今後はサロベツ湿原センターで消費拡大授業などの取組を実施し、部員達による具体的な手応えを得る機会を設けたいと思います。

■実施者からの声

J A組合員で行っている取組であるため直接の係わりは難しいですが、ぜひ北宗谷でつくられている安心・安全でおいしい牛乳を飲み、牛乳のPR協力をお願いします！

- 連絡先：JA北宗谷青年部
- TEL : 0162-82-2112

サロベツ自然語講座

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

- 日 時：6月11日(土)「サロベツ湿原の歩み」
8月6日(土)「サロベツの希少種と外来種」
11月5日(土)「サロベツ検定」
- 場所：サロベツ湿原センター
- 参加者数：13名(登録者数、各回平均11名)



(上) センター内では、スライドを使って座学を行う。
(右上) フィールドに出かけて、植物・動物観察も実施。
(右下) 毎回違う講師から詳しく話を聞けるのも魅力。



■活動内容・成果

平成19年度より継続して実施している自然語講座の活動を今年も実施しました。この講座のねらいは、サロベツ原野の自然や歴史をより身近に感じてもらおうと企画したものです。6月～11月までの期間において、異なるテーマを通して、様々な視点でサロベツの自然の面白さを受講者の皆様と学んできました。今年度の受講者は13名が登録されており、各回11名程度の参加がありました。

今回は複数の講師によるオムニバス形式で行い、毎回違う方からサロベツのお話が聞けるとあって好評でした。参加者からの意見として、座学よりもフィールド重視にしてもらえると良いという声も聞こえ、来年度の参考にしたいと思います。

■実施者からの声

誰でも気軽に参加できます。湿原と触れあうことができる講座となっており、より身近にサロベツの自然や歴史を感じてもらえると思います。サロベツ湿原センターで毎月このような催しを続けていくことで、サロベツのファンづくり、リピーターづくりにつなげていきたいと思います。

連絡先：NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
TEL:0162-82-3950

外来種からサロベツを守ろう！

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク 利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会

- 日 時：5月22日(日)、8月6日(土)※サロベツ自然語講座とコラボ、11月1日(火)
上記日程以外にも、NPOスタッフによる日常的な巡視と除去を実施。
- 場所：開運橋付近
- 参加者数：47名



(上) 外来種除去作業の様子。地道かつ多くの人手を必要とする。
(右上) 大きな株は無くなり、小さな芽をかき分けて探す。
(右下) 3年間の活動で除去量も減少し、成果がでてきた。



■活動内容・成果

この活動では、サロベツから少しでも外来種を減らすことを目標に、国立公園の各所で外来種除去活動を行っています。原生の自然が残るサロベツ原野にも、現在では多くの外来種が侵入してきています。代表的な外来種としては、植物ではオオハンゴンソウ、哺乳類ではアライグマやアメリカミンク、昆虫ではセイヨウオオマルハナバチが確認されています。

今年もイベントとしては春・秋の2回、その他に自然語講座の参加者の方やサブレンジャーの高校・大学生と共にオオハンゴンソウ群落の除去を実施しました。大変な作業ですが、成果は目に見えて出てきているので、今後も地道な活動を継続していきたいと思います。

■実施者からの声

目に見える形の分かりやすい保全活動だと思います。気軽に取組むことができ、活動しながら植物などを覚えていけるため植物に詳しくなくても大丈夫です。

一緒にサロベツの豊かな自然を守っていきましょう。

連絡先：NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
TEL:0162-82-3950

稚咲内砂丘林再生プロジェクト

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク、稚咲内町内会
豊富町、宗谷総合振興局、環境省稚内自然保護官事務所

- 日 時：5月～10月 稚咲内砂丘林防風柵内・苗畠（旧稚咲内保育所前庭）
7月12日(火)苗畠一斉草刈 8月2日(火)生育状況カウント調査
10月10日(祝)札幌のボランティア参加 10月17日(月)苗木移植イベント
- 場 所：稚咲内砂丘林 ●参加者数：174名



(上) 森林再生のため、ミズナラやイタヤカエデの苗木を植樹。
(右上) 植樹や草刈などをイベント化し、参加を楽しむ工夫も。
(右下) 地元の住民を中心に、多くのボランティアで作業をしている。



■活動内容・成果

国立公園内の特別保護地区の稚咲内砂丘林（町有林）において、無立木地化した約3haの森林再生に向けて、現砂丘林帯と同種生のミズナラ・イタヤカエデの苗木を育て、20年間で13,000本を植樹するプロジェクトです。今年は着手から7年目を迎え、約2,300本を植樹しています。

通常は、定期的な委員会を開催しているほか、NPOスタッフや会員さんによる日常的な作業を行っています。また今年は夏に地域の方々と連携して一斉草刈イベントを実施したほか、秋に大きくなった苗木を植樹するイベントを開催しました。慢性的に草刈りなどの維持管理の人手が不足しており、「みんなの森」として大切に育てていける体制をつくりたいと考えています。

■実施者からの声

住民と行政、NPOが一体となり、国立公園内の特別保護地区で行っている稚咲内海岸線砂丘林帯の再生事業です。誰でも気軽に取り組むことができる森づくり活動なので、興味のある人は、気軽にご参加ください。

連絡先：NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
TEL：0162-82-3950

サロベツ人気UP作戦

オバパワー俱楽部

- 日 時：第1回 4月30日(土)10:00～12:00
第2回(8月上旬)、第3回(10月中旬)は中止。
- 場 所：サロベツ湿原センター木道ほか
- 参加者数：10名



(上) 晴天に恵まれた早春の木道で、植物の新芽や昆虫を観察。
(右上) 木道からは、利尻山を眺めることもできる。
(右下) 参加メンバー数が増えており、活動の範囲を広げたい。



■活動内容・成果

はじめは「日本一楽しい観察会を」と2名で2008年に企画をした活動です。活動場所は、サロベツビジターセンターの「旧木道」でした。

旧木道は、目立つ花が咲いていないときは、いつも「何もない」と言われるのが悔しく、オープン前の早春に、虫眼鏡等を使い、小さな花の芽などを観察しました。7月末には、木道を歩いている観光客を呼び込み、一面のタチギボウシの大群落をフィールドスコープを使い覗いて頂く観察会を実施しました。秋には、黄金色になった湿原を歩いて回り、1年の感謝をする観察会を行いました。どの回も参加者が集まり楽しいものとなりました。ビジャーセンターも木道も新しくなった昨年からは、新たな参加者も加わり、オバ5名で活動しています。

■実施者からの声

サロベツが好きな人、サロベツをもっと知りたい人、サロベツを通りかかった人…つまり誰でも参加OK！自由に参加して下さい。

連絡先：サロベツ湿原センター
TEL：0162-82-3232

我が町再発見！ヘリ＆気球遊覧

サロベツ湿原保全推進協議会

- 日 時：6月25日(土)、26日(日)
- 場 所：豊富ヘリポート、豊富温泉、旧豊富中学校跡地
- 参加者数：ヘリ搭乗者313人、気球搭乗者133人



(上) 見慣れた風景も、空の上から見るとまた違った景色に。
 (右上) 気球による飛行も実現。こちらも大変好評だった。
 (右下) ヘリと気球の両方で、約450名の搭乗を実現。



■活動内容・成果

豊富町、幌延町の住民を対象とした遊覧ヘリ・係留気球への搭乗を、サロベツ原野のラムサール条約登録5周年記念事業として実施しました。住民を対象の無料ヘリ、気球搭乗は6月25日と26日の2日間行いました。限られた期間ではありましたが、ヘリには313人、気球には133人が搭乗しました。搭乗者からは「すごく感動した」「川の蛇行や沼・酪農の景色を上空から俯瞰することができ、貴重な体験ができた」といった感想があげられていました。

広報としては、新聞折り込みや関係団体へのチラシ配布を行いました。周知が遅れた点が反省点としてありますが、ヘリで313人、気球で133人の方が乗ることができ、良かったです。

■実施者からの声

記念事業として実施したため毎年行うことは出来ませんが、できれば5年後、10年後と空から湿原の様子を見る機会が作れれば良いと思います。

- 連絡先：NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
- TEL: 0162-82-3950

押忍！我ら豊富町『カレー部』！

みさたろとゆかいな仲間たち&サロベツクッキングクラブ

- 日 時：5月14日(土)、6月24日(金)、6月25日(土)、7月19日(火)
- 場 所：稚内市内
- 参加者数：1回につき6～7名



(上) 豊富牛乳をふんだんに使った、サロベツホワイトカレー。
 (右) 毎回、地元食材を使ったオリジナルカレーを開発、試食。



■活動内容・成果

職場の人のアイデアをきっかけに始まった、今年で3年目の活動です。サロベツをイメージしたカレー作りをメンバー宅等で行っています。

サロベツ産の食材を使用したカレーとして、地元の豆腐屋さんの豆腐や牛乳を使ったり、サロベツ原野のエゾカンゾウをイメージして、オレンジ色のパプリカを使ったりしながら、カレーを作っています。6月24日に集まり作成したホワイトカレーでは、エゾカンゾウを活用したかったのですが、確保することができず、使うことができませんでした。

今年は4回活動を行いましたが、報告会やパネル展示などの活動紹介の場でいろいろな人が興味を持ってくれるもの、興味を持った人をまきこんで活動する場所を確保することが課題です。

■実施者からの声

おいしい、楽しいを通じて、もっとサロベツを知ってもらいたいです！

- 連絡先：田中美佐保
- E-mail : misataro.kaeruchan@gmail.com



サロベツの縄文人の見た風景

ノプの会

- 日 時：2月27日(日)13:00～17:00、3月6日(日)13:00～17:00
- 場 所：サロベツ地区
- 参加者数：2名



(上) サロベツから眺めることのできる代表的な風景である利尻山。はるか昔、この山の噴火は発生していたのか。

(右) 川の流れも、現在とは全く異なっていた可能性がある。



■活動内容・成果

活動を始めた理由は、酪農を営んでいる方と接点が多かったため、酪農業やサロベツの自然に興味が湧いてきたことがきっかけです。仮想として、サロベツの縄文人は、海進・海退の時代にどんな風景を見たのか、利尻山の噴火はあったのか、古天塩川の流れはどうだったのか、砂丘のドングリが意味することは何か、ハクチョウは飛んでいたのか、といった疑問の答えを見つけるため、図書館で資料を探したり、本を読んだりしています。縄文人の目線でサロベツの古自然、古地理を探してみようと計画しましたが、昨年は出来ませんでした。もう一度気持ちを整理し、「縄文海進」と「湿原」にこだわった物語を紡ぎ出したいと思います。

これらのことから、自然再生のために力を注いでいきたいと思っております。

■実施者からの声

サロベツや道北を愛している方であれば、誰でも大歓迎です。一緒に活動を行いながら、サロベツの歴史や風景を見つけましょう。

連絡先：谷垣重遠

T E L : 090-8271-5157



サロベツの歌巡り

ノプの会

- 日 時：月1回
- 場 所：サロベツ地区
- 参加者数：2名

ご存知でしたか？

サロベツにまつわる歌

- ♪サロベツはああ草千里
- ♪サロベツ慕情 (1977 都はるみ)
- ♪北の慕情 (1996 大川栄策)
- ♪サロベツ絶唱 (1985 朝川ひろこ)
- ♪サロベツ原野の子守歌 (2003 長谷川千恵)
- ♪サロベツの風に吹かれて (みのや雅彦)
- ♪サロベツ原野 (2006 鳥羽一郎)



他、民謡など含め 20 数曲も！



海外からのお客様も参加して、カラオケでサロベツに関する曲を楽しんだ。

■活動内容・成果

多くの人に、もっとサロベツのことを知ってもらいたいと思い活動を始めました。サロベツに関する曲がなんと 20 数曲もあり、このことを知らない地元の人多いため、興味を持ってもらうことと、一緒にカラオケなどをていきたいという想いもあり活動を続けています。主な活動内容としては、「サロベツをテーマとした歌調べ」、「歌詞にあらわれているサロベツの叙情性をひき出してみる」、「これからサロベツの歌を歌いあげる歌詞の可能性」などを行っています。イベントの時などに集めた曲を聞いてもらい、曲を好きな人・知っている人がいたら一緒にカラオケができたら良いと思います。

■実施者からの声

一緒にサロベツの歌を歌いましょう。今年の町民文化祭では、サロベツに関する曲を集め、流せたらいいなと思います。

連絡先：谷垣重遠

T E L : 090-8271-5157

かつての泥炭地での酪農の取り組みを探る

サロベツの今を見直す100の声の会

- 日 時：月1回以上の活動を実施
- 場 所：サロベツ川流域
- 参加者数：約200名



(上) 酪農家同士で集まり、課題や問題点を話し合う。
 (右上) 冠水被害地の現地視察に訪れた、道職員と状況を確認。
 (右下) 地域の問題点を発信するため、地元議員との会合を設ける。



■活動内容・成果

活動は、「サロベツの今を見直す100の声の会」というサロベツの酪農家の集まりで行っています。会の中では、酪農を行っていく中での課題や問題点を集まりながら話し合い、自分達の現状を地域の議員などに発信する場を設けています。戦後入植以来、農家、関係機関、研究者などの絶え間ない努力により、かつての不毛の土地・サロベツ原野は有数の酪農地帯へと変わりました。その歴史の証言を聞き取り、現地を見学し、これからサロベツの酪農のあり方と一緒に探る場をつくっていきたいと考えています。

■実施者からの声

酪農家の集まりですが、誰でも参加できます。酪農に興味のある人であれば、ぜひ活動に参加してみてください。

- 連絡先：谷垣重遠
- TEL : 090-8271-5157

サロベツサブレンジャー

北海道大学植物同好会

- 日 時：7月下旬～8月下旬
- 場 所：サロベツ湿原センター
- 参加者数：13名（大学生8名、高校生5名）



(上) ふだん利用されている木道を維持も重要な活動。
 (右上) 夏休み期間であったため地元高校生も活動に協力してくれた。
 (右下) 外来種除去活動での、活動成果を前に一枚。



■活動内容・成果

北大植物同好会では以前より、毎年夏休みを利用してサロベツでサブレンジャー活動を行っています。今年からはビジターセンターの移転ということもあります。外来種除去や木道維持活動などの機会が増え、今までとはまた違ったサブレンジャーの活動となりました。特に外来種除去活動、調査地の整備などは、サロベツで起きている環境問題を直に見ることができ、また実際に環境保全活動の最前線を体験することができたためとても良い経験になりました。また、花火大会などの地元の行事にも参加し、サロベツの良さを違った側面からも知ることができました。サブレンジャーとして共に活動した豊富高校の高校生との交流も貴重な経験となりました。

■実施者からの声

自然保護に興味がある人にとっては、現場で活動している人の生の声が聞くことができる貴重な機会だと思います。

- 連絡先：北海道大学植物同好会
- E-mail : lakk66@gmail.com

サロベツ花札をつくろう in 2011

まっちゃん

- 日 時：10月29日(土)、30日(日) 豊富町民文化祭にて展示・実演
- 場 所：豊富町民センター
- 参加者数：約20名(2日間合わせて)



(上) 町民文化祭で来訪者に体験していただいた。
(右) 実際に使用した花札。花札本来のルールを覚えれば、誰でも遊ぶことができる。



■活動内容・成果

活動を始めたきっかけとして、高校生の頃サブレンジャーとしてサロベツ原野の写真を撮っていて、その写真を使って何かしたいと考えており、それがサロベツ花札誕生のきっかけです。

サロベツ花札のねらいとして、花札の名前と写真を見て同じ花札を探すことによって、楽しみながら無意識に花を覚えることができ、各季節の花が見られ、雨の日も花が見ることができます。

10月29日から30日には、豊富町民文化祭会場（豊富町民センター）にて展示・実演を行いました。町民文化祭で展示し、来場された方に遊んでいただきました。前回よりも見やすくし、「役」を作りました。課題としては、今後どう活用するかを考えていきたいと思います。

■実施者からの声

花札は、誰でもルールが分かれば遊ぶことができます。住民の皆さんにもオリジナルの花札をつくってもらい、大会などを開けると楽しさが増え、サロベツを知る機会が増えると思います。

連絡先：山形雅弘
TEL : 070-5049-9481

サロベツ原野であそぼ！

とんこり堂・法昌寺日曜学校

- 日 時：6月19日(日) 11:00～14:30
- 場 所：パンケ沼園地・木道
- 参加者数：14名(小学生10名、スタッフ4名。他協力者1名)



(上) リヤカーを使って現地まで移動。移動も遊びの一部。
(右上) 植物をよく観察し、楽しみながら原野に親しむことができた。
(右下) 観察の後、それぞれが発見したことを形にして表現した。



■活動内容・成果

とんこり堂・法昌寺日曜学校では毎月1度、小学生を対象に様々な体験活動をしています。

6月に行なった「サロベツ原野であそぼ！」はサロベツ原野までリヤカーを引いたり乗ったりしながら向かいました。車を使わずに移動することで、ゆったりと自然に触れ合いながらの道のりになり、また、エネルギーについても考えることができました。

グループに分かれて行った木道観察では身体を使った植物紹介をし、植物の特徴が印象深いものになりました。道中を含め、楽しみながらサロベツ原野に親しむことができたのが何よりの成果です。

■実施者からの声

毎回、多くの小学生が参加しています。興味のある方はご連絡ください。

連絡先：とんこり堂・法昌寺日曜学校 稲垣順子
TEL : 01632-5-2556
URL : <http://yaplog.ss-hosyozi.com/>



見つけよう！湿原に咲く花・虫・鳥

幌延町立中央保育所

- 日 時：6月30日(木)9:30～11:30
6月11日(土)事前研修
- 場 所：幌延ビジターセンター周辺、サロベツ湿原センター
- 参加者数：47名(幌延保育所児童40名、職員7名)



(上) 楽しみながら自然に触れ、学ぶことを目的として実施。
(右上) 職員事前研修で、植物を表現している様子。
(右下) 身近な自然からも、新しい発見や感動が色々見つかった。



■活動内容・成果

湿原について子ども達に知ってもらうために、以前は保育所の遠足として行っていましたが、今年は、職員7名が6月11日に事前研修を行い、湿原散策として子ども達に楽しんで学んでもらうように工夫を凝らして実施しました。職員の事前研修では、身近な自然の楽しみ方や子どもたちに興味や関心を持たせるポイントなどを学びました。6月30日に中央保育所4,5歳児40名と職員7名が子どもたちに植物や周りの様子について伝えながら遊歩道を歩きました。

子ども達は、水鳥や虫などを見つけて、展望台に上り散策した長沼周辺の全体を観て雄大さを実感したり、その都度気づいたことや感想を言い、印象に残った様子でした。

■実施者からの声

保育所の行事であるため、誰でも参加ということにはなりませんが、地域でも活動なさっている方がいますので、ぜひ子ども達が湿原や地域の良さを学ぶ機会を他でもつくってもらえたと思います。

連絡先：幌延町立中央保育所
TEL：01632-5-1254



ポニーの幌馬車・馬ソリ

東條信雄・恵太

- 日 時：日曜日9:00～15:00(前日までに電話予約で対応)
- 場 所：豊富町東豊富、豊富自然公園、豊富温泉、遠別農業高校
- 参加者数：約320名(豊富温泉雪あかり50人、遠別農業高校学校祭100人、ホッキ祭り170人)



(上) 夏は幌馬車として、イベント参加者や観光客などが多数乗車。
(右上) 親子の乗車が特に多く、子ども達も楽しんでいた。
(右下) 冬は馬ソリとして、観光客に好評を博した。



■活動内容・成果

活動のきっかけは、地域の子ども達を幌馬車に乗車させ楽しんでもらっていたのが始まりで、今は本格的に観光向けとして夏はポニーの幌馬車、冬は馬ソリを行っています。

様々なイベント等に出向き、豊富温泉雪あかりでは50人の方が、遠別農業高校学校祭では100人、ホッキ祭りでは170人の方が体験乗車し、とても好評でした。1年を通して、予約があれば主に日曜日活動を行っています。幌馬車や馬ソリの内装は、自分達で考え、子どもでも飽きずに乗車できるよう、DVDなどを設置しています。来年は、関係機関と調整をし、サロベツ湿原センター前の道路から出発し、原生花園に行き戻ってくるルートで試験的に運行して、観光客の方に喜んでもらいたいと思います。

■実施者からの声

ぜひ、ポニーの幌馬車や馬ソリに乗って、より楽しくサロベツの風景を感じもらいたいと思います。乗車してみたい方は、ぜひ連絡ください。

連絡先：東條信雄
TEL：090-2074-3988

木道ナイトハイク

環境省稚内自然保護官事務所
利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会幌延部会、幌延町教育委員会

- 日 時：7月23日(土) 19:30～21:00
- 場 所：幌延町下沼法昌寺、幌延町下沼パンケ沼
- 参加者数：71名(一般61名、環境省4名、利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティア4名、幌延町教育委員会2名)



(上) 夜間のパンケ沼。昼間とは全く違う雰囲気の中で観察した。

(右上) スタッフによる事前レクチャーの様子。

(右下) 募集用のチラシはHPに掲載、プレスリリースにも使用した。



■活動内容・成果

今年は、参加者に、より深い関心をもってもらうための試みとして事前に室内でレクチャーを行いました。手作りの衣装を用意して、ホタルの説明をしたり、動物写真家の富士元寿彦さんのご協力を頂きながら、野鳥の鳴き声についてレクチャーしました。現地ではホタルを観察できたとともに、野鳥の鳴き声も聞くことができました。澄んだ星空に魅せられていた参加者も多く、サロベツ湿原の魅力を感じてもらうことができました。

■実施者からの声

夜に活動を行う中で、日中は聞くことが出来ない野鳥の声や夜空の美しさに出会うことができます。どうぞお気軽にご参加ください。

連絡先：環境省稚内自然保護官事務所、利尻礼文サロベツパークボランティアの会幌延部会

TEL: 0162-33-1100

秋の渡り鳥観察会

環境省稚内自然保護官事務所
日本野鳥の会 道北支部、利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会

- 日 時：9月25日(日) 14:30～16:00
- 場 所：幌延町下沼の牧草地帯
- 参加者数：25名(一般16名、環境省2名、利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティア2名、野鳥の会兼利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティア3名、野鳥の会2名)



(上) オオヒシクイのぬいぐるみを使った重さの体験。

(右上) オオヒシクイを観察する様子。

(右下) たくさんのオオヒシクイが羽根を休めていて、絶好の観察機会となった。



■活動内容・成果

当日は野鳥の会の皆さんのがんばりで牧草地帯を移動して、農道や展望台からオオヒシクイやマガソングが何千羽もの群れをして採餌、休息している様子を観察しました。今回初めて参加した幌延町教育委員会チャレンジ教室の子供達も、日常ではありません見る光景に心を躍らせ、ぬいぐるみを用いてオオヒシクイの重さを体験したり、野鳥の会の方々や利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの方々の説明を受けながら観察を楽しみました。

■実施者からの声

サロベツ原野はラムサール条約湿地に指定されており、秋の渡りの時期にはサハリンやカムチャッカ半島から数千羽オオヒシクイやマガソングの群れが飛来します。

サロベツの自然を感じられる企画になっておりますので、お気軽にご参加ください。

連絡先：環境省稚内自然保護官事務所、利尻礼文サロベツパークボランティアの会幌延部会

TEL: 0162-33-1100



平成23年度総会および活動報告会・野鳥観察会 サロベツ学会

- 日 時：10月8日(土) 13:00～16:00
- 場 所：幌延町法昌寺および周辺農地
- 参加者数：12名



(上) 地域ボランティアの活動状況について報告。
(右上) 牧草地で餌をついばむ、オオヒシクイの様子。
(右下) 渡り鳥の十分な観察も行うことができた。



■活動内容・成果

サロベツ学会は、サロベツ湿原の研究をしている方々や地域住民が集まり結成されました。総会は12名の方の参加があり、平成22年度の事業報告・会計報告と平成23年度の事業計画・予算案などを報告しました。議事は順調に進められ、今年度の活動計画が認められました。活動報告として、「地域ボランティアの活動状況について」と「インドネシアの湿原の子供たちとの交流について」を行いました。広報活動の充実を求める意見が出され、ブログなどを立ち上げ、サロベツの魅力を広く知らせることとしました。総会および報告会の後に、下沼から豊富にかけての牧草地で羽を休め、餌をついばむオオヒシクイの観察会を行ないました。

■実施者からの声

サロベツ学会には、地域の方をはじめ、札幌などの遠方から参加する方もいらっしゃいます。サロベツ湿原に興味のある方は、ぜひご参加ください。

連絡先：サロベツ学会 稲垣綱順
TEL：01632-5-2556



市民参加型湿原保全活動（チームサロベツ）

サロベツ学会

- 日 時：10月8日(土) 9:30～11:30
- 場 所：サロベツ湿原湿地溝調査域・稚咲内砂丘林
- 参加者数：9名



(上) 湿原内の6箇所の水位測定を行った。
(右上) 晴天に恵まれたこともあり、順調に作業は進行した。
(右下) 地下水位観測終了後、会員が集合しての記念撮影。



■活動内容・成果

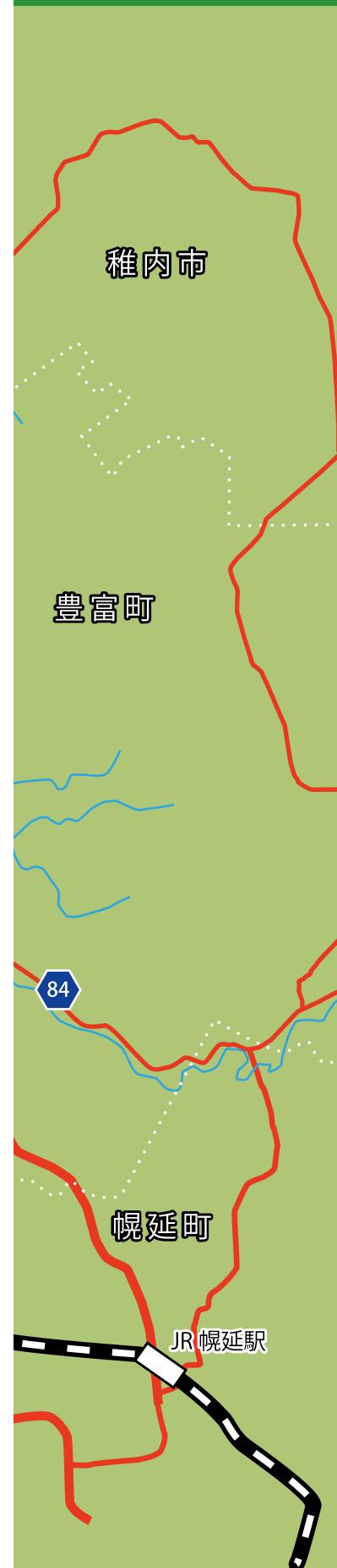
サロベツ学会が主催し、一般市民と協力のもと、市民参加型のサロベツ湿原保全活動として行っています。活動地域はNPO法人北海道水文気候研究所が調査を開始したサロベツ湿原西部湿地溝発達域で行っています。今年は、サロベツ学会会員8名と稚内自然保護官事務所から1名の合計9名で活動を行いました。10月8日の午前9時から11時半まで、2人一組で地下水位測定と記帳を行い、予定通り66本の地下水位観測を行いました。

毎年ネットやチラシを使って、会員募集を行っています。

■実施者からの声

市民参加型の湿原保全活動ですので、お気軽にご参加ください。
連絡先：サロベツ学会 稲垣綱順
TEL：01632-5-2556

サロベツ周辺マップ



幌延ビジターセンターを起点に、長沼～小沼～パンケ沼へと続く片道3kmの木道が通っています。木道からは、春から秋にかけて美しい湿原の植生や野鳥を観察することができます。